

第88号

平成28年2月12日

高二 岩田 和也
高二 吉岡 篤司
高一 水野 禎基

読書三昧

甲南中学・高校
図書館
図書委員会
芦屋市山手町
31番3号

▼こんな小さなお客様もいらっしゃいました



古本市にご来場いただいた方や、多くの本を提供して下さった方々から感謝いたします。本当にありがとうございます。古本市は2年に一回行っているもので、今回の古本市ではお名前のわかる方18名、退職された元教員の南里先生、その他たくさんの方から本を提供していただきました。回収した本の冊数は1960冊になります。

古本市は文化祭の約一ヶ月前から準備を行ったため、本の仕分けや箱詰め、シフトの管理などが順調に進みました。また、古本市開店中はレジの配置を工夫し、金券の回収や来場者の出入りなどをスムーズに行うことが出来ました。それに加えて、育友会やティーサロンの方に協力していただいて本を販売した結果、来場いただいた方以外にも多数購入して頂きました。来場者数は計165名、売上は351冊で37,550円になりました。古本市で残った本はブックオフを通じて1,609冊を12,785円で買い取っていただきました。これらの買い取り額や前回の古本市の売上金で、新しく学年文庫に32冊、7,267円で購入しています。また、今後、さらに学年文庫の本を買い足したり、本に関係する団体への寄付を行う予定です。使途については来年発行する読書三昧でお知らせします。ご協力ありがとうございました。

多くのお客様に来ていただき
ありがとうございます。
古本市

今回の古本市ではありとあらゆるジャンルの本を販売していたので、正直お客様に気に入った本を見つけても入る不安を感じていました。しかし、そのジャンルの広さから歴史は日本史の先生が健康関係は保健の先生と、購入されるお客様も様々でした。私は何回か古本市に参加して様々な仕事を

行いましたが、今回の仕事はレジのシフトの最後でした。1回のシフトが1時間ありましたが、古本市も残り40分となったところで50円タイムセールが始まりました。全品50円というだけあって、今までより多くのお客様に本を購入して頂きました。今回の古本市を通じてお客様との接し方や、商売を行うという感覚を体験することが出来てとてもいい経験になりました。
(高一 水野 禎基)



ティーサロンでの出張販売も育友会の方が快諾してくださったおかげでとてもいい古本市をおこなうことが出来ました。もちろん、まだまだ改善の余地はありますので、来年以降もじっくり検討し、更なる発展を見せてくれる

▼古本市の販売の様子



ことを祈っています。2年前より準備や販売の人数も来場者の数も多かったので、経験者は次回も活躍してくれると思います。

頼りない委員長でしたが、参加メンバーがしっかりと指示を聞いて協力してくれてとても嬉しかったです。これからも、委員会全体で楽しく活動していつてほしいと思います。
(高三 平田 奨)

ここで古本市での売上げの内訳を紹介します。

- ・ 小説 (160冊)
- ・ 一般 実用 (123冊)
- ・ マンガ単品 (42冊)
- ・ 雑誌 (0冊)
- ・ 児童書 (26冊)
- ・ 合計 29850円
- ・ マンガセット (6種類) 合計 4900円
- ・ ティーサロンと育友会 合計 2800円
- ・ 総計 37,550円

目次

- 1 古本市の開催
 - 2 灘甲戦読書会
 - 3 国語科 塩見恵介先生より
 - 4 図書委員が選んだ本の紹介
- 新旧図書委員のコメント

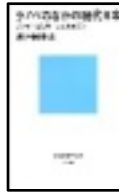
灘校との親善定期戦 六月十四日(日)一〇時

灘甲戦読書会

灘と甲南の両校の運動部が熱い戦いを繰り広げているなか、両校の図書委員も図書館に集まり、運動部に負けない白熱した議論を繰り広げました。

今年の読書会は甲南の体育館とグラウンドの改良工事が終わったため、久しぶりに甲南で行われました。灘校生の中には図書館にどこから入ればいいのかなどが分からず困惑している様子もありました。しかし、私たちがうまく誘導できたため混むこともなく、スムーズな滑り出しとなりました。

さてそんな状態で始まった読書会のお題は波戸岡景太氏の『ラノベのなかの現代日本 ポップぼっちノスタルジア』。ラノベを読む人読まない人、双方のラノベに対する考え方や見方を語り合いました。

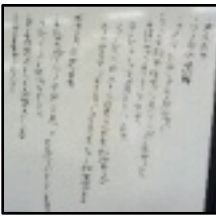


(9102/H)

私はこの読書会のお題がラノベに関することであることから、ラノベに慣れていない人は取り残されてしまわないかと心配していません。確かに、読書会の中盤までは話についていけない人の姿が見えました。しかし自他ともにオタクと認める猛者達が丁寧に説明を行ったため、この

読書会を通して議論している内容を全く理解出来なつか人はいなかったように思えます。私も何回か読書会に参加していますが、これまでの題材はすべて小説でした。今回のような論説文に対して、どのような議論が交わされるのかと不安を感じていましたが、気が付けば4時間も経ってしまいました。私の心配はどこへ行ってしまったのでしょうか。ほとんどの者がまだ議論しきつてないところがあるのか、熱中している時に流れる時間の速さを改めて身に染みているようでした。予定の時間を大幅に過ぎ、まだまだ話足りないところもありましたが、最後はラノベとはSFやファンタジーにとっても似ているが別物で、どの種類に属しているか明確ではないという所まで話し合っ読書会は幕を閉じました。

読書会の後には、お菓子をいただきながら両校の交友をさらに深めていきました。両校の流行や様々な出来事を語り合い有意義な時間が過ぎていきました。今回の読書会のお題は、ラノベという人にはよってはほとんど読まないかもしれない内容だったのですが、非常にリスクのある挑戦だったように思えます。皆で楽しく語り合い、互いの話に耳を傾け、知識を共有は皆出来たと思います。とても充実した読書会であったと私は思っています。
(高1 岩田和也)



甲南側の参加者で中学1年生は僕と同じクラスのもう一人だけだったので分からないことがたくさんありました。僕たち中1は討論の内容をホワイトボードとノートに書くという役割がありました。他の図書委員に分かるとやくす丁寧な字で書けるか分からず不安を感じていました。
本を読んでも内容が難しかったため、あまり理解をしないまま参加してしまいました。そうしたら先輩方の白熱した議論についていけなくなりしました。しかし先輩方からやさしく声をかけて頂き、だんだんと内容が分かるようになりました。
中学1年生の僕にとっても難しい内容でしたが、とても充実した読書会でした。
(中1 遠藤慎太郎)



僕は、最初はこの灘校との話し合いに参加しようかどうか迷っていました。なぜなら今まで1度しかラノベを読んだことがなかったのですが、ラノベについて議論を交わすことに対してついていける自信がなかったからです。しかし、僕の所属している部活の先輩で図書委員でもあるTさんに参加を促され、参加することにしました。話し合いでは、僕は書記の役割を与えられました。そのためあまり話し合いには参加することが出来ず、ずっとメモを取り続けていましたが途中から少しづつではありましたが意見を言えるようになりました。この読書会ではあまり自分の意見を多く言うことはでき



いませんでしたが、様々な意見や考え方が分かったため、来年も参加したいと思えます。
(中1 北村拓豊)

来年も甲南の図書館にて読書会を行います。どのような本をテーマにするかは灘校の図書委員とよく相談の上で決めていこうと思います。次回は図書委員になって私たちと一緒に読書会に参加しましょう！

本を書く、とく(り)ん

国語科 塩見恵介 先生

読書三昧という「本を読む」ことから外れますが、本稿では「本を書く」ことについて話そうと思います。

ここ数年、俳句の理論書や指導書を手がけることが増えました。中でも

『お手本は奥の細道 はじめて作る俳句教室』(すばる舎リングージ)を書いたのは楽しい思い出です。芭蕉の

『奥の細道』の中には合計六十二句の俳句があります。これをお手本として

俳句の作り方を初学の人に解説できないうか、という出版社からの注文に、気軽に書き始めたのですが、その気軽さはすぐに消滅しました。商業的に流通させなければならぬ本で、スケジュー

ルもタイトです。四十日で、資料を集め、読み込みながら、約十二万字の原稿を書き上げなければなりません。授業もある中、毎日三時間睡眠でしたが、書き手がサボると、編集者が困ります。

装丁やデザインは仕事になりません。版元は出版予定日に合わせ、既に各書店の売り場の本棚をおさえています。

出版が少しでも遅れば、苦労しておさえたそれらの場は全て他の本に取って代わられ、営業マンの努力は水泡に帰します。本はついつい作者に目が行きますが、チームプレーで作られるものです。野球で言えば、著者は投手。

二年前から毎週「春夏秋冬楽しく俳句」という連載を書いています。時にストレスフルなことがあっても、それは後になって自分を大きく成長させてくれる、というのを実感しています。

編集は捕手。版元は監督。装丁やデザインは内野手、印刷や営業は外野手といったところ。どのポジションも大事です。この本の場合、装丁が百戦錬磨の大ベテランでした。初登板の私に「完璧なものを書こうと思うな、いけるといって、がむしやらに毎日書け！」とことあることに励ましてくれ、なんとか世に送り出すことができました。

『俳句のえほん』(くもん出版)の解説の執筆は、ストレスフルな仕事でした。絵画を使って小学生にわかりやすく俳句を解説するのですが、やさしく書いたつもりが、何度も編集部から「難しすぎる!」と諭され、結局、夏休みを全部使うはめになりました。これでよし!と送った原稿が突き返されます。一応確認しておきますが、私は

国語の教師です。国語の先生の作文に「ダメ出し」は普通にあるのが本当の世間です。書いては、ボツにされ、プ

ライドをズタズタにされながら書き直す。けれど腹を立てながらも最終的にできたこの本は、あちこちで良い評判

をもらい、この中の文は国語の問題集に使用してもらっています。この本を見た「朝日小学生新聞」の編集者が、

東京から私に会いに来てくれ、連載の相談をもちかけてくれました。それで

私の場合、俳句のことを書く仕事は孤独なものではありません。多くの人

と関わって、自分と異なる価値観を学ぶ機会に繋がっています。新しい自分を発見し、次はどんな自分に展開していくのか、わくわくさせられる世界です。それが楽しみで、俳句について執筆を続けて

います。

『お手本は奥の細道 はじめて作る俳句教室』(すばる舎) (911.3/S)

『写真で読み解く俳句・短歌・歳時記大辞典』(あかね書房) (911.1/S)

『泉』(フランス堂) (911.3/しお)

『俳句のえほん』(くもん出版) (911.3/T/1)

『泉こぼ』(フランス堂) (911.3/しお)

『お手本は奥の細道 はじめて作る俳句教室』(すばる舎) (911.3/S)

『写真で読み解く俳句・短歌・歳時記大辞典』(あかね書房) (911.1/S)



『俳句のえほん』
(くもん出版)
(911.3/T/1)



『泉こぼ』
(フランス堂)
(911.3/しお)



『写真で読み解く俳句・
短歌・歳時記大辞典』
(あかね書房)
(911.1/S)



『お手本は奥の細道
はじめて作る 俳句教室』
(すばる舎)
(911.3/S)

図書委員の選んだ本の紹介

十二月二十二日にジュンク堂三宮センター街店にて、8名の図書委員で店頭選書を行いました。メンバーそれぞれの目線で本を選びました。

今年も多くの本がこの店頭選書によって仲間入りを果たしました。その中からいくつかの本の紹介をします。興味のある方は一度読んでみて下さい。図書館にまとめて展示しています。

『スキンコレクター』 (高二 岩田和也)

この本はアメリカの有名ミステリー作家デイヴアーの最新作です。今回の犯人は皮膚に異常な興味を示す天才刺青師。過去に発生した様々な重大事件を参考に計画を練る犯罪者です。ニューヨークに住む四肢麻痺患者でありながら天才鑑識官リンカーンはこの犯人に立ち向かうが、今までリンカーンが解決した事件のパターンを知っている犯人は、警察の作戦を予測出来るためなかなか作戦が成功できません。しかし、そのような用心深い犯人が不覚にも事件現場に落とされた一枚の紙きれが、事件解明の手掛かりとなっていくのです。

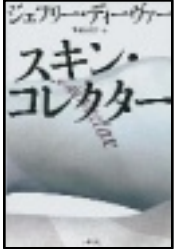
この作品には彼のデビュー作に出てきた人物が重要なカギになるので、すべての作品を最初から読むことをお勧めします。彼の作品は図書館に揃っていますので、興味のある方は一度彼のデビュー作である『ボーンコレクター』から読んでみて下さい。

著者：ジエフリー

・デーヴアー

出版：文藝春秋

(Y/デイ/10)



『プレゼンをキメる30秒のつくり方』

(中三 三木康太郎)

三〇秒の「オチ」さえ磨けば、相手は必ず、説得できる！前例なし・裏付けデータなしで大ヒットを生んだ著者が明かす、どんな提案も通る説明の秘策。

これを読めばプレゼンに限らず説明の組み立て方もわかり、部活のミーティングや授業でのパワーポイント作成でもとても参考になる一冊です。

実際に僕は部活でプレゼンをすることが多いのですが、順序がおかしかったり、話題の切り替えがおかしかったりすることがありました。しかし、それもこの本を読むことで解決する事ができました。自分の話に、「説得力」をつけたい人にお勧めです。

著者：高橋晋平

出版：日本BPP社

(336.4/工)



『宮沢賢治の全俳句』

(中三 中川多聞)

宮沢賢治といえは、「銀河鉄道の夜」「注文の多い料理店」などの文学作品の名前が頭に浮かぶと人が多く思います。

しかし、そのような文学作品に比べると宮沢賢治の『俳句』は印象が薄いように感じます。そう言う私もこの本を店頭選書で目にするまでは知りませんでした。内容としては、俳句とそれについての句意や鑑賞文が主で、挿絵や写真の類はありません。紹介されている俳句の解説はとても分かりやすいので、俳句に興味がない人にも読んでもらいたい一冊です。

著者：石寒太

出版：飯塚書店

(911.3/みや)



旧図書委員より

いろんな方に支えられながら、図書委員として六年間を楽しく過ごすことが出来ました。来年以降も図書委員みんなが協力して、楽しく活動出来ることを期待しています。六年間ありがとうございました。

(委員長 高三 平田奨)

新図書委員より

中学2年生の頃から図書委員として本の整理やカウンター当番などを行ってきましたが、この読書三昧に関わるのは初めてでとても良い経験になりました。来年度は図書委員長として様々なことを率先して行えたらと思っています。

(新委員長 高一 岩田 和也)

図書委員の後輩たちに伝える。カウンターの仕事ちゃんとやれよ！

6年間図書委員をやってきてここで学んだことは多かったです。本当にお世話になりました。

(副委員長 高三 轟悠)

学校内での図書館利用率の向上を目標に全力を尽くしていきますのでよろしくお願いします。この学校の皆さんとともに『読むという楽しみ』を共有することが出来ればと思っています。

(新副委員長 高二 吉岡篤司)

長いようで短い六年間の図書委員会生活でした。優しい先輩、元気な後輩、そして仲良くしてくれた同輩達に囲まれて学園生活をより楽しく過ごせました。一生の思い出です。ありがとうございます。

(マネージャー 高三 原将仁)

本校の図書館には読みたかった本はもちろん、こんな面白いものがあったのか、と感心していただいている様な素敵なお本が多く所蔵されています。皆さんにそのような素晴らしい一冊をピックアップしていきたいです。

素敵な本を学校の皆様に、より一層手にとっていただける様、誠心誠意努めてゆく所存です。

(新マネージャー 高一 水野 禎基)